人と森をつなぐ情報誌

森塾

4

2023
No.193

特集

レクリエーションの森へ出かけよう!!

令和5年 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰

受賞者紹介

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰とは？

緑化推進運動の実施について、顕著な功績のあった個人又は団体に対し、内閣総理大臣が決定し、表彰を行うものです。

令和５年は13の個人・団体が受賞されました。受賞者の方々をご紹介します。

過去の受賞者については林野庁ウェブサイトをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson_ryokka/hyosyo/index.html

田中政晴氏　（香川県さぬき市）

田中氏は、教師を退職した後、専業林家として、以下の取組が評価され、受賞されました。

- 優良大径材の生産を行いながら、生態系に配慮した災害に強い山づくりを実施してきたこと
- 低コストで効率的な施業方法の試行や研究機関と連携した精英樹の試験林の整備など、新しい試みに積極的に取り組んできたこと
- 大川町林業研究会（現さぬき市林業研究会）を設立し、地域の森林づくりを通じて、森林の大切さを伝える活動に尽力してきたこと

▲ 森林の楽校（もりのがっこう）

▲ 森林ボランティア養成講座

人と森をつなぐ情報誌
林野
4
2023
No.193

表紙の写真：野反湖とノゾリキスゲ（群馬県）

webアンケートにご協力をお願いします!
https://www.contactus.maff.go.jp/rinya/form/kouhou/202304.html

Contents

03 特集 「レクリエーションの森」へ出かけよう！
08 TOPICS 01 2022年の木材輸入実績について
10 TOPICS 02 みどりの月間
11 TOPICS 03 全国がんばる林業高校生表彰
12 森林（もり）を活かす都市（まち）の木造化 「建築物木材利用促進協定」制度ってなに？
14 フォレスター（森林総合監理士）活動書記 森づくりを実直に！地域に入り、現場を重視する、豊田市の集約化の取組
16 国有林野事業の取組 岳岱自然観察教育林のシンボルツリー選定
18 TOPICS 04 令和４年度 林業成長産業化地域成果報告会
19 みどりの大使が行く！ 山梨県での視察

特集

レクリエーションの森へ出かけよう!!

日本の国土の多くは、豊かな森林につつまれています。

林野庁では、みなさまに広く森林に親しんでいただけるよう、優れた自然景観を持ち、森林浴や自然観察など自然とのふれあいに適した国有林を「レクリエーションの森」に設定しています。

その中から特にお薦めする７箇所を、今月号と９月号の２回に分けてご紹介します。

※記事で紹介した施設やイベントの営業・開催状況については、事前に主催者の HP 等でご確認ください。
※お出かけの際には、天候や服装などに注意するほか、新型コロナ感染症対策に十分努めていただくようお願いします。

お出かけできないときは、WEBサイトで楽しんでみませんか？

レクリエーションの森のうち、特に景観が優れた93 箇所を『日本美しの森 お薦め国有林』に選定しており、こちらからご覧になれます。

▶レクリエーションの森：林野庁

ドローンによる空撮映像はこちらをご覧下さい。

▶ドローン空撮映像：林野庁

写真上：中部局　美ヶ原風致探勝林（長野県）、 写真下：関東局　野反自然休養林（群馬県）

北海道森林管理局後志森林管理署

登別温泉風景林

北海道登別市

世界的にも珍しい「温泉のデパート」がお出迎え！地獄!? が楽しめる、幻想空間をのんびり散策

日和山と大湯沼

概要

登別温泉風景林は、北海道の中では比較的温暖で積雪量の少ない南西部の太平洋側に位置し、我が国有数の温泉地である登別温泉街を囲むように広がっています。日和山、地獄谷、大湯沼等の見どころがあり、周辺は天然記念物「登別原始林」に指定され、ミズナラを主体にシナノキなどが生育する原生的な森林が広がるほか、ミヤマキヌタソウをはじめとする多種多様な草本類も自生しています。

「登別」は、アイヌ語の「ヌプル・ペッ」（色の濃い川）に由来しており、古来よりアイヌの人々は温泉を薬湯として利用していたと言われています。この登別温泉は豊富な湧出量と多様な泉質を誇り、特に９種類もの源泉があるのは世界的に見ても珍しく「温泉のデパート」と呼ばれています。

楽しみ方

地獄谷は直径約 450 mの爆裂火口跡で登別温泉最大の源泉エリアとして、高温の湧出孔などがたくさんあります。活火山の日和山の白煙やその噴火によって生じた大湯沼から立ち上る湯気は、まさに地獄絵図を見ているようです。周辺には遊歩道が整備され、気軽に散策することができます。夜には揺らめく灯りに照らし出された遊歩道が、暗闇に微かに浮かぶ「鬼火の路」のようであり、幻想的な空間を体験できます（日没から21:30まで）。

地獄谷遊歩道

地獄谷

アクセス

公共交通機関の場合

JR 札幌駅（特急すずらん・北斗：約 75 分）→JR 登別駅（道南バス：約 20 分）→第一滝本前バス停（徒歩：1 分）→登別温泉

札幌駅（高速バス（高速むろらん号､高速白鳥号）：約 120 分）→登別駅（道南バス：約 20 分）→第一滝本前バス停（徒歩：1 分）→登別温泉

自動車の場合

札幌駅（道央自動車道：約 100 分）→登別東 IC（道道 2 号他：約 30 分）→登別地獄谷駐車場（有料）

参考 URL

一般社団法人 登別国際観光コンベンション協会

https://noboribetsu-spa.jp

関東森林管理局吾妻森林管理署

野反自然休養林

群馬県中之条町

コバルトブルーの野反湖と一面を彩る高山植物 その鮮やかさを満喫して、秘湯に身をゆだねる

コバルトブルーの美しい野反湖

概要

野反自然休養林は群馬、長野、新潟の３県にまたがる上信越高原国立公園内に位置しており、２千m級の山々に包まれる野反湖（標高 1,513 m）と、高山植物をはじめとする3百種類を超える植物と白樺などの森林が一体となって美しい景観を生み出しています。５月下旬になると、白樺林の中に群生するシラネアオイが見頃となり、７月上旬から中旬にはノゾリキスゲが一面に咲き、コバルトブルーの美しい野反湖が可憐に彩られます。

ノゾリキスゲと青空

楽しみ方

野反湖のまわりはなだらかな草原となっており、高山植物をゆったりと眺めながら遊歩道の散策を楽しむことができます。また、白砂山（標高 2,140m）をはじめとする周囲の山々には本格的なハイキングコースがあり、草津白根山などの名峰が連なる大展望を稜線や山頂から満喫できます。

さらに、野反湖キャンプ場をベースに、イワナやニジマスのフィッシング（５月１日～11 月 10 日）、バードウォッチングなどのアウトドアアクティビティも楽しめます。

周辺にある「尻焼温泉」も、巨大な露天風呂が有名です。

野反湖とノゾリキスゲ

アクセス

公共交通機関の場合

JR 高崎駅（JR 吾妻線：約 80 分）→JR 長野原草津口駅（六合地区路線バス：約 75 分）→ 野反湖バス停

自動車の場合

関越道 渋川伊香保 IC（国道 353 号線他：約２時間 40 分）→野反湖第一駐車場 無料

参考 URL

野反湖　六合の里温泉郷組合　（中之条町観光協会）
https://nakanojo-kanko.jp/kuni/spots/%E9%87%8E%E5%8F%8D%E6%B9%96/

群馬県　野反湖エリア 群馬の山旅（群馬県）
https://gunma-kanko.jp/spots/429

中部森林管理局東信森林管理署、中信森林管理署

美ヶ原風致探勝林

長野県松本市、上田市、長和町

目の前に広がる大パノラマ！
牧歌的雰囲気に包まれた、観光客に人気の場所

美ヶ原高原の遊歩道

放牧されている牛

概要

美ヶ原風致探勝林は、長野県の中央部にある美ヶ原高原（標高約２千m）に位置しています。そのほとんどは八ヶ岳中信高原国定公園に指定されており、最高峰王ヶ頭（標高 2,034m）を含む周辺一帯は日本百名山の一つに数えられています。

山上部には視界をさえぎる高い樹木がほとんどなく、360 度の大パノラマが広がるほか、周囲の牧場では、夏にはのんびりと草を食む牛をはじめ、風に揺れるレンゲツツジやマツムシソウなど様々な高山植物を目にすることができます。美ヶ原高原へは、観光道路「ビーナスライン」が整備され、車で容易にアクセスできるため、初夏から秋にかけて多くの観光客が訪れています。

楽しみ方

山上部にはいくつもの遊歩道や登山道が整備されており、手軽な散策から本格的な登山まで体力や目的などに応じてコースを選ぶことができます。遊歩道の途上にある、美ヶ原高原のシンボル「美しの塔」の周辺は、牧歌的な雰囲気に包まれ、ハイカーの憩いの場となっています。

天候がよければ、高原のいろいろな場所からアルプス、八ヶ岳、浅間山、富士山などを一望することができ、季節によっては雲海にこれらの山々が浮かんで見えます。

美ヶ原高原山上から北アルプス

アクセス

自動車の場合

岡谷市方面から

長野道　岡谷 IC より約 60分（国道 142 号他）

東御市方面から

上信越道　東部湯の丸 IC より約 70分（県道 81号線他）→美ヶ原長和町営駐車場（山本小屋ふる里館前）又は美ヶ原台上駐車場（道の駅美ヶ原高原前）

松本市方面から

長野道　松本 IC より約 70分（国道 254号他）→美ヶ原駐車場（美ヶ原自然保護センター前）

参考 URL

美ヶ原観光連盟：美ヶ原観光連盟公式サイト
https://www.utsukushi2034.jp

美ヶ原高原観光協議会：美ヶ原高原
https://www.utsukushigaharakogen.jp

信州ビーナスライン連携協議会：ビーナスライン
https://www.venus-line.net

四国森林管理局高知中部森林管理署

三嶺風景林

高知県香美市

四国で最も美しい山と移りゆく山の四季が楽しめる！豊潤な森を堪能したあとは、温泉でゆったりと

三嶺ヒュッテと剣山など

概要

三嶺風景林は高知県香美市北部に広がる山岳地帯に位置し、一帯は剣山国定公園に指定されています。最高峰の三嶺（1,894m）を中心に、南の白髪山（1,770m）、西の西熊山(1,816m)、天狗塚（1,812m）などいくつかの山頂があるほか、西熊渓谷をはじめとする数々の深い谷が織りなす渓谷美が見られます。

稜線部は一面のミヤマクマザサの中にコメツツジ群落が点在し、緩やかな曲線で描かれた麗しい山容を見せることから、四国で最も美しい山と言われています。また、稜線から中腹にかけてはケヤキ、ブナ、モミなどの原生的な天然林が、渓谷沿いにはトチノキ、カエデ類などの渓畔林が広がり、これらが多彩で美しい景観と多くの生命を育む豊潤な森を生み出しています。

楽しみ方

複数の登山道が整備されており、渓流の清流に触れられる「堂床」と原生林、高山植物が見られる「さおりが原」を経由するルート、白髪山山頂の北側の大岩「北のテラス」で一休みして縦走を楽しめるルートなどが人気です。徳島県側からは「名頃」ルートがあります。

山頂や稜線まで登れば、視界をさえぎるものがなく、東は剣山、西は石鎚山まで四国の主な山岳、南には土佐湾を望む大パノラマが広がります。

三嶺とミツバツツジ

アクセス

公共交通機関の場合

三好市側より

JR阿波池田駅（四国交通バス祖谷線久保行：約110分）→久保バス停（三好市営バス名頃線：約25分）→名頃バス停（徒歩：約5分）→名頃新登山口

自動車の場合

香美市側より

高知市（国道195号：約60分）→香美市物部町大栃（県道49号線他:約60分）→ヒカリ石登山口 駐車場無料（林道西熊・別府線：約30分）→白髪山登山口 駐車場無料

徳島県三好市側より

JR阿波池田駅（国道319号線他：約90分）→名頃駐車場 無料（徒歩：約1分）→名頃新登山口

参考URL

香美市観光協会
http://www.kigenhaeikayo.com/page/00000032.htm

香美市HP
https://www.city.kami.lg.jp/map/sanrei.html

三好市HP
https://miyoshi-city.jp/spot/ 三嶺 /

TOPICS 01

2022年の木材輸入実績について

2022年の我が国の木材輸入には、前年に発生したいわゆる「ウッドショック」後の反動、ロシアのウクライナへの侵攻、さらに住宅需要の減退といったことが大きく影響したと考えられます。

本稿では、世界の動向を概観した上で、2022年における我が国の品目別の輸入実績を紹介します。

1 世界の動向

2021年のいわゆる「ウッドショック」の要因の一つとなった、世界的なコンテナ不足や海上輸送の混乱は解消し、高騰していた海上輸送運賃も年末にかけて下落傾向となりました。一方で、ロシアのウクライナへの侵攻により、供給不安が生じたことで木材需給がひっ迫し、産地価格が高騰しました。その後、米国の住宅ローン金利上昇により、住宅着工戸数が減少したため、木材需要は縮小し、北米製材メーカーは、工場の一時閉鎖や減産を実施しました。

2 ロシアによるウクライナ侵攻の影響

ロシアのウクライナへの侵攻を契機に、欧米によるロシア産木材等を対象とした経済制裁の発動や認証機関によるロシア材に関する森林認証の停止などが行われました。他方、ロシアによる非友好国（欧米諸国や日本など）へのチップ・丸太・単板の輸出禁止措置が導入されるなど、ロシアと他国・地域との間の木材貿易を取り巻く情勢が激変しました。

我が国も、国際社会と協調し、ロシアのチップ・丸太・単板の輸入を禁止しました。また、ロシアへのWTO最恵国待遇を撤回し、製材等の関税率を引き上げました。

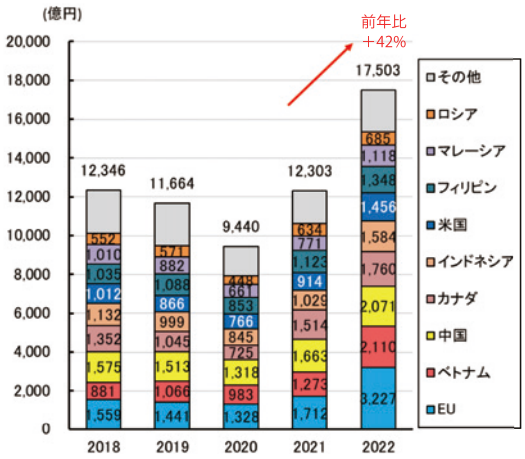
3 2022年の我が国の木材輸入実績

① 国別の輸入額

2022年の木材輸入額（HS44類）は、前年より42%増加し、1兆753億円となりました。前年に引き続き2年連続で増加しています。

国別でみると、EUが3年連続で第一位となりました。二位はベトナムで、前年の四位から順位を上げました。この他の主要国からの輸入額は、産地価格の高騰や円安などの影響により、軒並み増加しました。

木材輸入額の推移



② 丸太

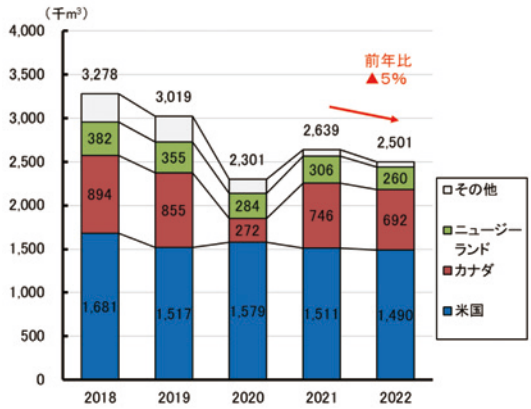
2022年の丸太輸入量は、前年より5%減少し、250万㎥となりました。

国別でみると、米国（シェア：60%）は、前年より1%減少の149万㎥となりました。年初の産地価格高騰、その後の円安で輸入コストが大幅高となったものの、価格低下等により前年と概ね同水準となりました。

カナダ（同28%）は、前年より7%減少し、69万㎥となりました。日本国内の合板の供給不足により2022年前半は引き合いが強まったものの、後半は需要が急減したため、輸入量が減少しました。

ニュージーランド（同10%）は、前年より8%減少し、26万㎥となりました。

丸太輸入量の推移



③ 製材

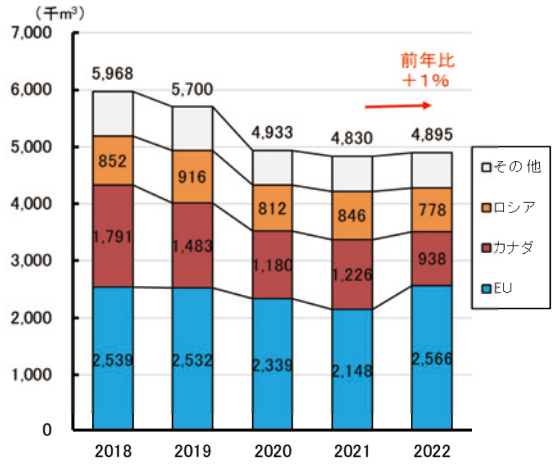
2022年の製材輸入量は、前年より1%増加し、490万㎥となりました。

国別でみると、EU（シェア：52%）は、前年より19%増加し、257万㎥となりました。ロシアのウクライナへの侵攻により、木材不足の再来が懸念されたことから、輸入量が増加したものの、年末にかけて輸入量は減少しました。

逆に、カナダ（同19%）は、前年より20%減少し、94万㎥となりました。産地価格が値上がりしたことで、輸入量が大幅に減少しました。

ロシア（同16%）は、前年より8%減少し、78万㎥となりました。

製材輸入量の推移



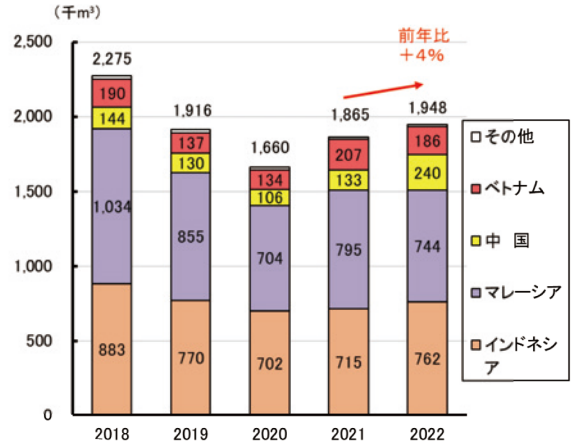
④ 合板

2022年の合板輸入量は、前年より4%増加し、195万㎥となりました。

国別でみると、インドネシア（シェア：39%）は、前年より7%増加し、76万2千㎥、逆にマレーシア（同38%）は、前年より6%減少し、74万4千㎥となりました。2021年契約分が年始に遅れて輸入されたものの、その後、輸入量は減少しました。

一方、中国（同12%）は、前年より81%増加し、24万㎥となり、ベトナムを抜き、合板輸入量で第三位となりました。

合板輸入量の推移

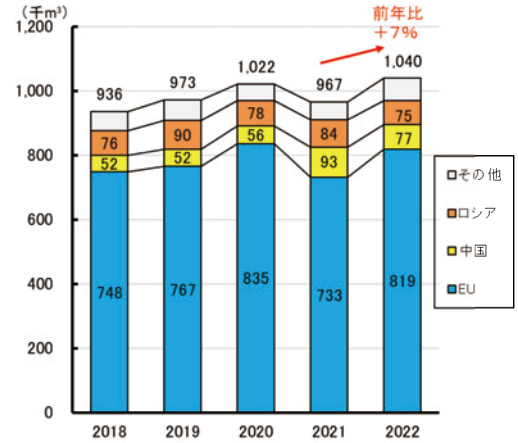


⑤ 集成材

2022年の集成材輸入量は、前年より7%増加し、104万㎥となりました。

輸入の大宗を占めるEU（シェア：79%）からは、前年より12%増加し、81万9千㎥となりました。製材と同様にロシアのウクライナへの侵攻により、木材不足の再来が懸念されたことから、輸入量が増加したものの、年末にかけて輸入量が減少しました。

集成材輸入量の推移



資料：「貿易統計」（2022年は確々報値）

4 おわりに

2022年の木材輸入量を品目別にみると、丸太は減少した一方、製材、合板、集成材は増加しました。しかし、年の後半は、住宅需要の減退等により、前年同月比で減少傾向が続きました。

林野庁では、引き続き、木材の輸入動向に関する情報を積極的に提供してまいります。

※記述の出典等については、林野庁ウェブサイトに掲載した「2022年の木材輸入実績」をご確認下さい
https://www.rinya.maff.go.jp/j/boutai/yunyuu/attach/pdf/boueki-9.pdf

TOPICS

02

令和5年度 みどりの月間

毎年４月15日から５月14日は「みどりの月間」です。月間中は、多くの方々に森林や自然とふれあい、植樹活動に取り組んでいただけるよう、様々なイベントが開催されるほか、緑の募金運動が重点的に実施されます。

緑の募金

４月15日（土）からの「みどりの月間」を緑の募金全国一斉強調月間として、春の「緑の募金」運動が展開されます。

緑の募金は「寄付」という形を通して、国内外で行われる植樹や間伐などの森林整備や緑化を行うボランティア活動、森林を活用した子供たちへの森林環境教育等を支援するものです。また、災害による被災地域の復興の支援を目的とした森林整備や緑化等にも使われています。

ぜひ皆様の御協力をお願いいたします。

緑の募金

各種緑化行事

例年、「みどりの月間」には、全国で森林などの自然やみどりに触れる行事や、みどりに対する見識を拡げるためのイベントが行われます。詳細については、以下のウェブサイトでご確認下さい。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/ryokka/gekkan/

写真提供：国土緑化推進機構

▲地域住民参加の植樹活動

TOPICS 03

全国がんばる林業高校生 表彰

「全国がんばる林業高校生表彰」は、将来の森林・林業を担う人材として、日々森林・林業に関する社会活動や研究などに取り組んでいる高校生の取組を応援するため、全国林業研究グループ連絡協議会が令和２年度から開催している表彰行事（林野庁補助事業）です。

今年度からは資格取得や社会活動への参画状況を多面的に評価する「学校推薦部門」と地域の森林・林業の振興や課題解決を目指し取り組んでいる活動や研究を評価する「地域活動・研究部門」の２部門で実施しています。

「学校推薦部門」では鳥取県立倉吉農業高等学校の上山星凜（うえやまきらり）さん（３年生）が、「地域活動・研究部門」では熊本県立芦北高等学校の林家ハンター班（代表：吐合陽海（はきあいはるみ）さん、池田健真（けんしん）さん、上村安寿磨（うえむらあすま）さん、全員２年生）がそれぞれ林野庁長官賞を受賞しました。

二次審査及び結果発表はオンラインで実施されたため、各部門の受賞者には後日、それぞれの学校へ林野庁担当者が出向いて賞状を授与し、受賞者や学校、県の関係者などと意見交換を行いました。

学校推薦部門で受賞した上山星凜さんは４月より林野庁近畿中国森林管理局に就職しており、今後の更なるご活躍を期待しています。

各受賞者について

学校推薦部門

鳥取県立倉吉農業高等学校　上山星凜さん（３年生）

活動内容：第20回聞き書き甲子園参加、ナツエビネの研究、小学生へのエリンギ栽培指導等

取得資格：小型車両系建設機械（3t未満）、アグリマイスター顕彰制度のゴールド認定等

受賞歴：第42回日本学校農業クラブ中国ブロック連盟大会優秀賞等受賞、鳥取県農業クラブ連盟平板測量競技会最優秀賞等

地域活動・研究部門

熊本県立芦北高等学校　林家ハンター班

（吐合陽海さん、池田健真さん、上村安寿磨さん、全員２年生）

テーマ：地域と共に森を守る～林家ハンターの挑戦～

活動内容：地域と連携した新たなシカ捕獲体制の構築、ICT・IoTを活用した捕獲わなの設置と活用、捕獲したシカの有効活用（ジビエ料理の普及）、狩猟免許の取得（わな猟）等

シリーズ

森林を活かす都市の木造化

「建築物木材利用促進協定」制度ってなに？

1 はじめに

平成22年に制定された公共建築物等木材利用促進法が改正され、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（通称：都市の木造化推進法）として令和3年10月に施行されました。これにより、これまでの公共建築物における木造化・木質化のみならず、民間建築物を含む建築物一般を対象に更なる木材利用の促進に取り組むこととされました。

法改正により、民間建築物における木材利用を促進するツールとして、新たに創設されたのが「建築物木材利用促進協定」制度です。

今回は、この協定制度の目的やメリット等についてご紹介します。

2 協定制度の目的

都市の木造化推進法にて創設された協定制度は、建築主たる事業者等が国又は地方公共団体と協働・連携して木材の利用に取り組むことで、民間建築物における木材の利用を促進することを目的としています。

協定の内容としては、事業者等による建築物木材利用促進構想及びその達成に向けた取組、国又は地方公共団体による建築物木材利用促進構想の達成に資するための情報提供等その他支援に関する事項等となっています。

建築主となる事業者等は、こうした建築物における木材利用の構想を立てて、その実現に向けた具体の取組を実施することを協定書に明記し、国又は地方公共団体と本協定を締結することができます。

協定の形態としては、木材を利用する建築主との2者協定や、木材を供給する林業・木材産業や建設事業者等が加わった3者協定などがあります（図1）。

この協定に関し、国は、締結内容等の公表を行うとともに、事業者等の木材利用の取組を促進するため、必要な財政上の配慮などの必要な支援を行うこととしています。

3 協定締結のメリット

協定を締結した事業者等は、協定に基づく木材利用促進構想の達成に向けた取組に対して、国又は地方公共団体による技術的助言や情報提供の支援等が受けられるほか、左図のようなメリットが挙げられます。

また、協定の締結により、木材利用による脱炭素社会への貢献など、対外的なPRに活用いただけます。

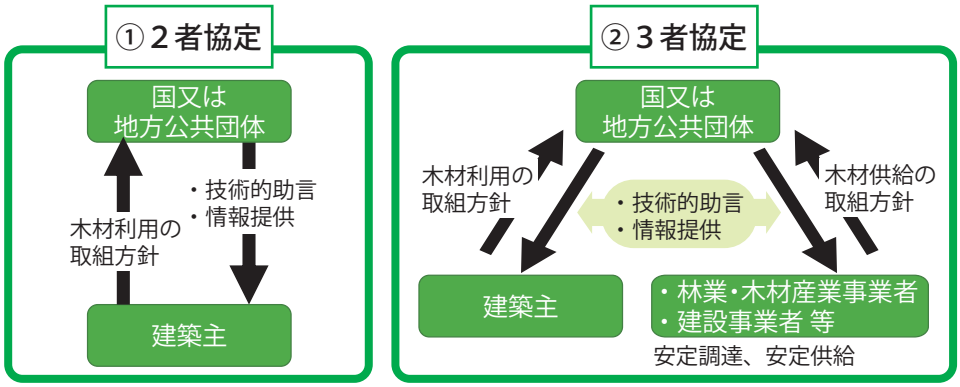


図１　協定の形態イメージ

協定締結のメリット

建築主となる事業者	○ホームページに公表されることやメディアに取り上げられること等により、当該当事業者の社会 的認知度が向上するだけでなく、環境意識の高い事業者として、社会的評価も向上します。 ○木材利用による炭素固定など環境保全への貢献は、ESG投資などの新たな資金獲得につながる可能性があります。 ○国や地方公共団体による、財政的な支援を受けられる可能性が高まります。（例：一部予算事業における加点等優先的な措置）
林業・木材産業事業者	○信頼関係に基づくサプライチェーンが構築できます。 ○事業の見通しができるようになり経営の安定化が図られます。 ○林業・木材産業が環境保全に資するという国民理解の醸成が進みます。
建築事業者	○信頼関係の構築による安定的な需要の確保が期待できます。 ○サプライチェーンの構築による安定的な木材調達ができます。 ○ホームページに公表されることやメディアに取り上げられること等により、技術力のアピールができ、社会的認知度も向上します。

4 協定の実績

令和5年3月末時点での国との協定は10件、地方公共団体との協定は65件となっています。

令和4年12月末時点で締結している協定の取組の実績は、次のとおりです。

〈国との協定〉

合計216件の建築物の木造化・木質化が行われ、合計約4900㎥の木材が使用（約3400t-CO_2の炭素を貯蔵）されました。

〈地方公共団体との協定〉

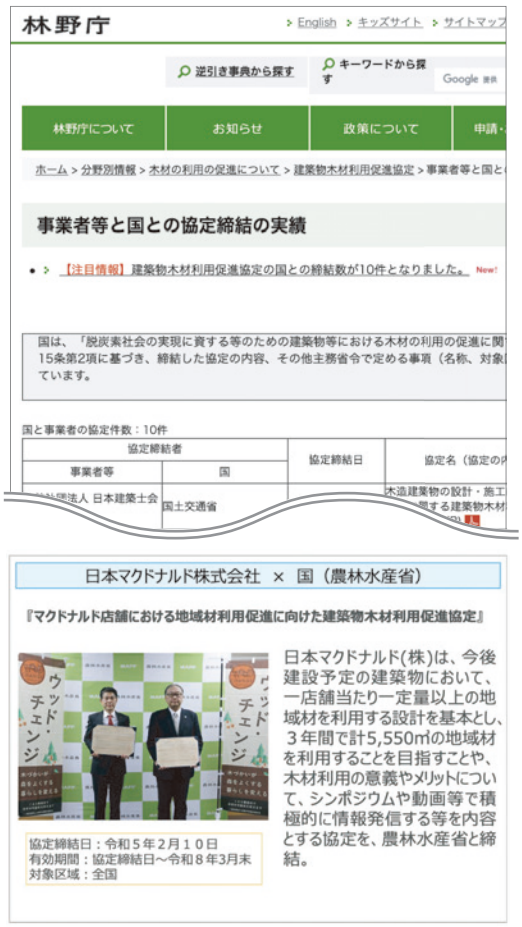
合計516件の建築物の木造化・木質化が行われ、合計約10200㎥の木材が使用（約6200t-CO_2の炭素を貯蔵）されました。

また、木造の設計者や施工者の人材育成、広く一般に向けた情報発信等が積極的に行われており、今後の木材利用の促進にも寄与しています。

国や地方公共団体においては、協定締結に関する相談に対応するとともに、協定締結者に対して、技術的助言や情報提供、優良な取組として広報するほか、補助事業において優先的に支援等を行いました。

今後、協定制度を通じた民間建築物での木材利用がより一層進むことにより、これまで、あまり木が使われてこなかった、事務所などの商業施設や中高層の建築物等でも木材の利用が当たり前となる世界となっていくことを期待しています。

協定実績の公表



5 次回のお知らせ

次回以降は、個別の協定事例について取組の内容や木材利用の実績等を御紹介します。（6月号に掲載予定。）

参考

○建築物木材利用促進協定制度の御紹介（全般）
https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/mokuri_kyouteei/index.html

○協定締結実績
https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/mokuri_kyouteei/zisseki.html

○脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（都市の木造化推進法）の概要
～森林を活かした都市等のウッド・チェンジ～
https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/mokuri_kyouteei/attach/pdf/index-7.pdf

シリーズ

フォレスター（森林総合監理士）の活動書記

森づくりを実直に！ 地域に入り、現場を重視する、豊田市の集約化の取組

豊田市産業部農林振興室森林課　担当長　小山剛

①はじめに

私は、２００２年度に旧稲武町に一般行政職として採用され、翌年より林務担当となりました。２００５年度の市町村合併により新設された豊田市森林課に10年間所属し、異動により林務行政以外も経験しましたが、再び林務行政に携わりたいという思いから、２０１５年度に森林総合監理士の資格を取得し、２０２０年度に森林課に再度配属され、現在に至っています。

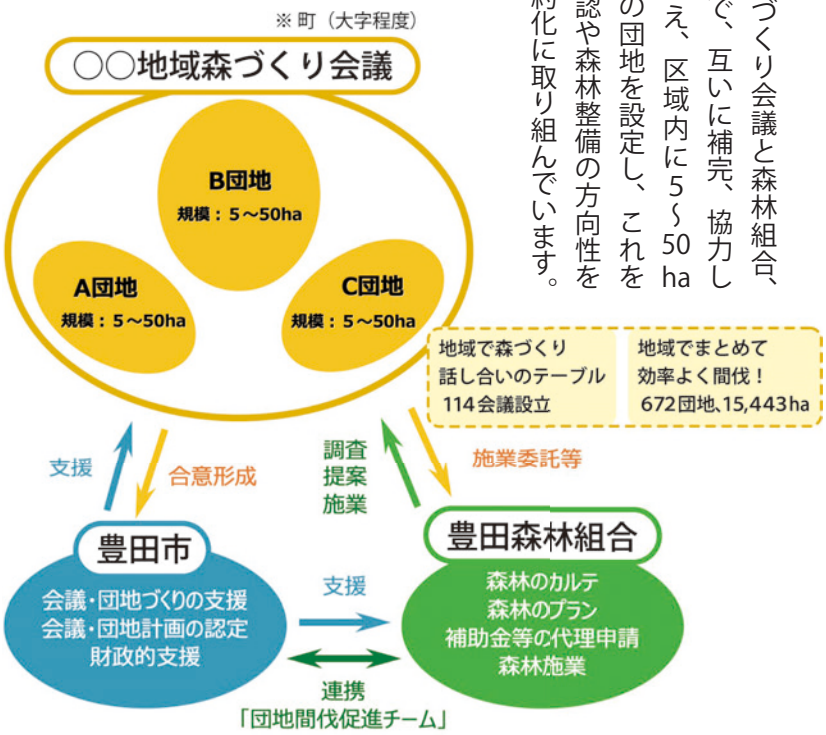
豊田市の森づくりは、２０００年の東海豪雨災害が原点であり、土砂流出の防止機能や水源涵養機能などの公益的機能が高度に発揮される森づくりを施策の中心としています。特に過密人工林の一掃を第一の目標としており、独自の森づくり会議・団地による集約化を実施しています。私は長年にわたり、この取組に携わってきたので、ご紹介させていただきます。

②地域森づくり会議・団地の概要

過密人工林の一掃に向けた間伐を効率的かつ計画的に推進していくためには、まず私有林の境界を明確にする必要があります。ところが、豊田市では森林部分の地籍調査はほとんど実施されていない上に森林簿の精度も低く、間伐を進める基盤となる情報が揃っていませんでした。そこで、森林所有者が主体的に森づくりを考える組織である「地域森づくり会議」を自治区や町内会などの地域ごとに立ち上げることにしました。

この地域森づくり会議と森林組合、豊田市の３者で、互いに補完、協力し合う体制を整え、区域内に５～50ha程度の人工林の団地を設定し、これを単位に境界確認や森林整備の方向性を検討して、集約化に取り組んでいます。

- 集落単位のメリット
- 既存コミュニティを活用
- 森林所有は、集落の人が大半



地域森づくり会議・団地のイメージ

③推進体制と進め方

この「森づくり会議・団地方式」を円滑に進めるため、森林課職員と森林組合職員が各5～6名と、森林組合の契約職員8～10名（豊田市が費用の8割を補助）で地区担当制の「団地間伐促進チーム」を結成し、現場を重視した地域密着型の体制を構築しています。また、市職員も境界確認や測量、森林調査などの現場作業に積極的に出向くことにより、職員のスキルアップを図るとともに、森林所有者の声を直接聴いて、次の施策立案に生かすようにしています。

このチームでは、搬出間伐、自力間伐のほかに、「切置き間伐」を数多く計画していることが特徴となっています。この「切置き間伐」は、伐採木を土留めや肥料となるよう林内に置くもので、比較的少ない人員で効率的に間伐できるため、効果的な手法と考えています。

④実績

最初の数年は、森づくり会議設立に注力し、私も毎晩のように山間地域の寄り合いに出席し、説明をしていました。地域への手厚いフォローも功を奏し、森づくり会議の設立数を増やし、令和4年度までには1万5千ha以上で集約化し、境界確認や測量、森林調査を行うことができました。これは、市内の私有人工林の約55％にあたり、大きな成果といえます。

現在、年間1千ha程度の間伐が安定的に実施されており、過密人工林は合併した2005年時の半分程度になっています。

地域森づくり会議・団地の実績

年度	設置数	認定面積 (ha)
2007	15	-
2008	27	308.02
2009	19	782.46
2010	9	1108.17
2011	5	1166.66
2012	5	1072.82
2013	2	1229.6
2014	8	1090.33
2015	8	1054.38
2016	7	1245.6
2017	2	1098.36
2018	2	912.13
2019	2	1062.28
2020	1	1104.31
2021	1	1100.51
2022	1	1107.83
合計	114	15443.46

※市内の私有人工林は27,000 ha

⑤さいごに

市町村の森林行政の権限や役割が増大した今日では、市町村が主体的に森林施策を考える必要があり、森林総合監理士の役割は重要です。

私は、森林総合監理士として、森林所有者、森林組合を始めとする林業経営体、県、市の職員（一般行政職も含む）と森づくりのビジョンを共有し、現場や地域の特性を重視しながら、一体となって森づくりを推進できるよう、その取りまとめの役割を担いたいと思っています。

詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

豊田市の森づくり施策

『森林施策と自治・分権－「連携」と「人材」の視点から－（第４章 豊田市における森づくり施策の展開）』(公財) 日本都市センター

https://www.toshi.or.jp/publication/18545/

豊田市の森林施設全般

市のホームページでご覧いただけます。

https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/soshiki/sangyo/1004515.html

国有林野事業の取組

岳岱（たけだい）自然観察教育林のシンボルツリー選定

東北森林管理局　米代西部森林管理署

はじめに

岳岱自然観察教育林及びその周辺地域は、秋田県藤里町を流れる藤琴川の上流で、藤里駒ヶ岳と三蓋（さんこう）山の２つの高い山に挟まれた台地に位置しており、ブナ林が広がる林内の遊歩道を散策しながら、世界自然遺産「白神山地」を感じることができます。

秋田県側の「白神のシンボル」として、林野庁の「森の巨人たち百選」に選定されるなど地域に親しまれてきた「４００年ブナ」が２０２２年の冬に倒伏しました。これを受け、東北森林管理局は秋田白神ガイド協会や藤里町などの地域関係者から意見を集め、「白神のシンボル」を受け継ぐにふさわしく、これまでも林内で親しまれてきた巨木２本を新たなシンボルツリーに選定しましたので、ご紹介します。

新たなシンボルツリー

一つ目は、ブナの巨木です。岳岱自然観察教育林の駐車場から遊歩道の分岐を右手に進んだところにあり、幹周り約４ｍ、樹高約29ｍもあります。倒伏した「４００年ブナ」とともに、これまでもブナの巨木として知られた存在でしたが、新たに「岳岱大ブナ（たけだいおおブナ）」と愛称を付けて、より親しんでいただくこととしました（写真１）。

もう１つはシナノキの巨木です。岳岱大ブナからさらに数十ｍ進んだ遊歩道沿いにあり、幹周り約５ｍ、樹高約28ｍの堂々とした姿です。この木は、幹にコブを抱えており、これが神社の狛犬に見えることにちなんで、愛称を「こま

管内概要

所在地　秋田県能代市御指南町３-45

区域面積　197,999 ha
うち森林面積　118,469 ha
うち国有林面積　45,192 ha

関係自治体　能代市、男鹿市、潟上市、藤里町、三種町、八峰町、五城目町、井川町自然遺産の白神山地があります

米代西部森林管理署は、秋田県の北部に位置し、米代川の下流域にあたる能代市など３市５町に所在する約４万５千 ha の国有林を管理経営しています。

藩政時代より、天然秋田スギの産地として木材産業が発達してきた地域であり、現在もスギを主とした人工林が林地面積の５割を占めています。

米代川河口の海岸国有林「風の松原」は、藩政時代から植林が行われてきた歴史があり、市民の憩いの場として活用されているほか、北部には、世界自然遺産の白神山地があります。

図１　概略位置図

いぬシナノキ」としました（写真２）。
いずれも遊歩道上から見ることができ、周辺では一際目を引くシンボルツリーといえます。

倒伏した４００年ブナ

倒伏した「４００年ブナ」は、今でも駐車場から遊歩道を３００ｍほど真っ直ぐに進んだところで見ることができます。倒れる前は、幹周り約４・85ｍ、樹高26ｍもある巨木で、地域住民による保存活動も盛んに行われ、台風等による被害も乗り越えてきましたが、近年の樹勢の衰えに加え、多雪が大きく影響し、倒伏したものと思われます。

この場所では、「４００年ブナ」が倒れたことで林冠ギャップができ、明るくなった林床では稚樹の成長が期待されます。

このため、藤里町を含めた地域関係者と調整のうえ、「４００年ブナ」は除去せず、現地にそのままの形で保存するとともに、林冠ギャップ内の天然更新や森林再生のプロセスを観察する場として活用していくこととしました。

おわりに

岳岱自然観察教育林の雪解けは遅く、道路開通は例年5月下旬頃になっています。皆さまにも機会がありましたら、是非「岳岱大ブナ」「こまいぬシナノキ」に会いにお越しいただき、楽しんでいただきたいと思います。

写真１：岳岱大ブナ

写真２：こまいぬシナノキ
赤丸部分が木の幹にあるコブ。
これが神社の狛犬に見えることにちなんで、
「こまいぬシナノキ」と呼ばれています。

写真３：在りし日の400年ブナ

写真４：400年ブナ倒伏により生じた林冠ギャップ

TOPICS

04 令和４年度 林業成長産業化地域成果報告会

林業成長産業化地域 成果報告会について

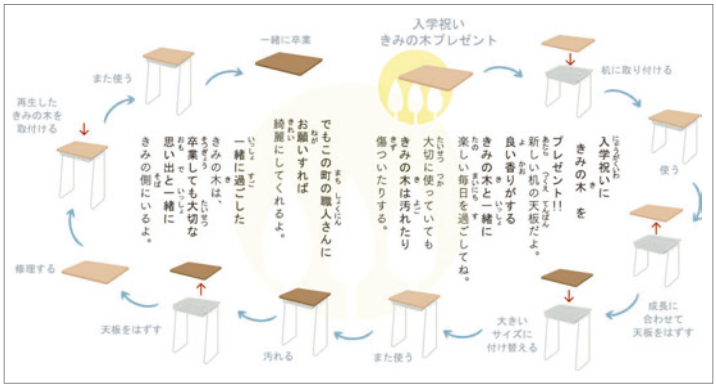
林野庁では、**平成29年度から30年度にかけて、**川上から川下までの関係者が連携して地域の活性化に取り組む**「林業成長産業化地域」を選定**し、その創意工夫による取組を５年間にわたり林業成長産業化地域創出モデル事業（以下、モデル事業）により優先的に支援してきました。また、**それらの取組の横展開を図るため、毎年成果報告会を開催**してきました。

令和４年度はモデル事業の最終年となることから、事業の総括も含めた、「令和４年度林業成長産業化地域成果報告会」を１月31日にオンライン併用で開催し、優良事例の発表、パネルディスカッションなどを行いました。

成果報告会では、筑波大学の立花敏氏から基調講演をいただき、林業をとりまく状況の変化や政策の動き、今後への期待などについてお話をいただきました。また林野庁からは、事業を総括し５年間の成果として、川上から川下までの各段階で優良な事例が得られるとともに、全体として見ると、素材生産や再造林、林業就業者等の定量的な数値も増加していることを報告しました。

優良事例として、山形県最上・金山地域の狩谷健一氏（金山町森林組合）から ICT 林業による林業経営や省力化について、鳥取県日南町・中央中国山地地域の荒金太郎氏（日南町役場）から林業アカデミーによる人材育成等の取組、大分県日田市地域の綾垣早人氏（日田市役所）から大径材の需要促進や製品の高付加価値化の取組等について発表していただきました。

パネルディスカッションでは、森林総合研究所東北支所の御田成顕氏がコーディネーターを務め、優良事例報告を行った３地域に、秋田県の千葉泰生氏（大館市役所）と宮城県の竹中雅治氏（登米町森林組合）の２名を加え、地域の体制作りや合意形成における苦労や工夫、取組の成功要因や困難だった点等について議論を深めました。特に合意形成については、大枠で合意を得た上で、事業を進める中で選択と集中を図り方向性を定めていく方法や、できる者で先行的に取組を実施し、良好な結果を示すことにより合意を図る方法などについて情報共有が行われるとともに、地域が一体となって課題に取り組むことの重要性が確認されました。



日田市地域では学校机「きみの木」を開発、市内小中学校へ導入

なお、モデル事業で得られた成果については、下記ホームページで成果報告書や事例集を公開しています。

林野庁HP ▶ https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kouzoukaizen/koufukin.html

みどりの大使が行く！

2023ミス日本みどりの大使
上村（かみむら） さや香（か）

任期が始まり、約2ヶ月が経ちました。たすきをつけた数は約30回！なかでも印象的だったことは林業を学びに山梨県に行ったことです。マスクを外し、森林の香りを身体いっぱいに吸い込み、五感をフルに活用し学んでまいりました。

苗木生産者の想い

「生きてらー」今回の視察で1番印象に残った言葉です。甲州弁で「生きている」という意味です。

視察では、最初に苗木生産の有限会社明見緑化さんを訪ねました。標高が高い地域ではカラマツがよく植えられています。そんなカラマツの種子は、松ぼっくりを割った中にあると聞き、とても驚きました！あんなに大きな木の始まりは、5㎜程の小さな1粒の種子なのです。ここから約60年かけて立派な木に成長し、木材として利用されるのです。東京オリンピックの会場になった国立競技場の大屋根にも山梨県産カラマツ材が使用されているそうです。

明見緑化の皆様と

私は「お仕事をしていて1番やりがいがあるのはどんな時ですか？」と質問をしました。明見緑化の宮下さんは「自分の子供たちのような苗木の成長に〝生きてらー〟と感じるとき、自分も生きてらーと思う。」とお話してくださりました。「伐って、使って、植えて、育てる」という森林のサイクルの中で、苗木は終わりであり、始まりでもある立ち位置なのだと学びました。改めて、森林も人間も同じ地球の中で困難に立ち向かいながらも工夫し、前に進み続け生きているのだと感じました。

組合長が大切にしていること

続いて、南部町森林組合さんに伺いました。山梨県唯一のJAS（日本農林規格）認証木材加工工場を持つ、とても大きな森林組合です。木材共販所はスギやヒノキ、カラマツなどの美しい木目の丸太が高く積み重ねられており、澄んだ青空と相まって圧倒されました。工場では私より若い世代の方が熱い眼差しで加工技術のことを話してくださったことがとても印象的でした。

南部森林組合 共販所にて

組合長の木内さんには「お仕事の中で1番大切にしていること」を尋ねました。木内さんは「働いている職員の皆さんが、働きやすい、頑張ろう！と思える職場を作りたい」と仰いました。こうした想いが若い世代に伝わり、森林の未来につながっていくのだと感じました。

山梨での視察を終えて

今回の山梨林業視察では有限会社天女山さんでのドローンを使った森林調査の自動化や、株式会社キーテック山梨工場さんでの100％国産材を使用した合板製造も学びました。

現場の皆さまからたくさんの言葉や想い、笑顔をいただきました。日常でもふと周りを見渡すと、森林から生まれたものがたくさんあることに気づき、人はみどりの恵みと共に生きているんだなと改めて感じられた視察でした。

林野
4
2023
April
No.193

「緑の募金」は、身近な地域の森づくりをはじめ、国内外の森づくりや人づくりなどに大切に活用されています。

緑の募金
ご協力をお願いします

春の新緑シーズン(1月～5月)と秋の紅葉シーズン(9月～10月)の年2回
家庭募金、街頭募金、職場募金、企業募金、学校募金などによって行われています。

緑の募金に関するお問い合わせはこちらまで
公益社団法人 国土緑化推進機構 フリーダイヤル 0120-110-381
ホームページ https://www.green.or.jp 電子メールアドレス bokin@green.or.jp

緑の募金で進めよう SDGs

発行／林野庁 〒100-8952 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話 03-3502-8111（代） FAX 03-3591-6505
編集／USAMEDIA 東京都新宿区西新宿3-3-13 印刷／株式会社コームラ 岐阜県岐阜市三輪ぶりんとぴあ3

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは
情報誌 林野 検索